

陶土屋さん
からの
ニュースレター

巻頭のあいさつ

磁器 シキよまんば!

[早くよまなきゃ!]

発行部数954部

2021.9
27

令和3年8月、また豪雨でした(泣)

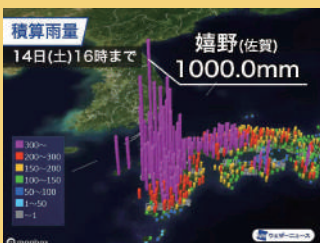
佐賀県内及び全国各地で被災された方々にお見舞い申し上げます。たくさんの方からご心配のお声をいただきありがとうございます。おかげさまで私どもは何事もなく無事でおります。

佐賀県嬉野市は8/11～14の4日間で年間降水量の半分1024mmの雨が降りました。工場の隣を流れる塩田川の下流域は一時氾濫危険水位を超えましたが、有明海の満潮を過ぎた時間だったこともあって事なきを得ました。

海洋プランニングさまからご注文

3月末にサンゴ礁で行う潮流調査用の石の模型を1200個納めさせていただきました。

最初はサンゴと同じ比重の球体を製作できる所を紹介し



てほしいとのことでしたが、見当たらず…。お話を聞いているうちに円柱であれば当社で可能なので、昨年7月に100個を作り、そのテスト結果が良かったため今回の受注となりました。

これらのサンゴを真似た人工の石が実際に海底でどのように動いていくのかを追跡・実測し、その結果と予測計算を突き合わせて、より精度の高いシミュレーションモデルを作ることを目指しているそうです。この成果は、気候変動などによる海面上昇で後退しつつある海岸線の保全や、ひいては島作りにも応用されるとのこと。

われわれの素材が人々の生活をより良くする手助けとなることは嬉しいかぎりです。

各種環境調査・水中映像記録・気象海象機器の設置・生物分析などを行われている
海洋プランニング(株)井手さま



判別用の刻印入り石の模型



刈野直幸

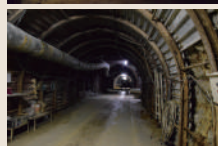
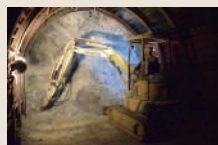
岡山の 耐火物 原料事情

1970年代まで耐火煉瓦の主要原料は地元産の蛸石でしたが、徐々に主力が韓国産の蛸石に置き換わって

現在、事実上稼働しているのは、三石の土橋鉦山、吉永の東備鉦山の2鉦山で、これに岡山市内にある竹原鉦山を加えた3鉦山が、地元の窯業原料として主な供給元となっている。

耐火煉瓦の主原料は「蛸石(こうせき)」と呼ばれる鉦産物です。当地では明治時代より「三石蛸石」の採掘が行われており、そこから日本有数の耐火物の産地となりました。市内北部の三石地区、吉永地区には日本最大の蛸石鉦床があり、最盛期には50以上の鉦山がありました。

岡山県備前市は備前焼の里として有名ですが、産業分野において耐火煉瓦や不定形耐火物といった耐火物産業の盛んな地域であることはあまり知られていません。品川リフレクトリーズ、ヨータイ、黒崎播磨といった大手メーカーをはじめ、多数の耐火物メーカーが市内各地に点在し、各メーカーに原料を供給する粉砕工場もたくさんあります。



耐火物産業も蛸石クレーも、コロナウィルスの影響で厳しい状況にあります。国内需要が縮小する中、地域や国境、ジャンルを越えて、幅広く市場を探していく必要があると認識しています。

三石蛸石(土橋鉦山)を使用しています。残り2社は韓国の蛸石を使用しています。耐火物産業も蛸石クレーも、コロナウィルスの影響で厳しい状況にあります。国内需要が縮小する中、地域や国境、ジャンルを越えて、幅広く市場を探していく必要があると認識しています。

三石蛸石のもう一つの用途として「蛸石クレー」があります。蛸石クレーは、蛸石を砕いて水簸加工した微粉で、塗料や製紙の塗工剤、ゴム、樹脂用の充填剤、農薬キャリアなどに利用されます。吉永地区には現在4社の蛸石クレー工場があり、うち2社で三石蛸石(土橋鉦山)を使用しています。残り2社は韓国の蛸石を使用しています。

残念ながら国内の陶磁器産業は厳しい状況で、土橋陶石の出荷は年々縮小傾向にあります。そこで東南アジアの食器メーカーに向けて販促活動を展開しています。また、地元の備前焼作家さんとのコラボも進めています。新時代の「白い備前焼」にご期待ください!

土橋鉦山(株)の武部将治です。弊社は従業員11名の小さな鉦山で、現在も坑道採掘を続けています。鉦区内の地下100m～270m付近に良質なセリサイト鉦床が付帯しており、今は地下156m付近を掘進しています。採掘しているのは、セリサイト(土橋陶石)、パイロフィライト(蛸石)、珪石の3鉦種で、年間生産量は1万5000トンです。土橋陶石は、衛生陶器やポンプチャイナ、瀬戸物、硬質磁器向けに出荷しています。ある食器メーカー様によると、土橋陶石は大峠陶石、村上粘土の代替品として利用が始まったそうです。蛸石は、蛸石クレー、釉薬、坩堝の原料になります。珪石は、農薬キャリアや連続製造パウダーなどに使われます。



はじめまして。土橋鉦山(株)の武部将治です。弊社は従業員11名の小さな鉦山で、現在も坑道採掘を続けています。鉦区内の地下100m～270m付近に良質なセリサイト鉦床が付帯しており、今は地下156m付近を掘進しています。採掘しているのは、セリサイト(土橋陶石)、パイロフィライト(蛸石)、珪石の3鉦種で、年間生産量は1万5000トンです。土橋陶石は、衛生陶器やポンプチャイナ、瀬戸物、硬質磁器向けに出荷しています。ある食器メーカー様によると、土橋陶石は大峠陶石、村上粘土の代替品として利用が始まったそうです。蛸石は、蛸石クレー、釉薬、坩堝の原料になります。珪石は、農薬キャリアや連続製造パウダーなどに使われます。

お盆の 10 時間ドライブ

今年のお盆は主人の実家（山口県美祢市美東町。あの秋吉台 秋芳洞で有名？な）へどうしても大事な用事があったので帰省しました。8月14日に。

そう、佐賀・長崎・福岡に大雨特別警報が出た日…。大雨のため、次から次に利用区間の高速道路が通行止めになってしまっ

て…。最後の希望、関門橋も通行止めに(泣)。結局、高速道路が通れず、下道で帰ることになりました。途中コンビニで食事とトイレ休憩を挟みながら、主人と交代で運転。お昼の12時に福岡を出発、山口の家に着いたのは夜の10時。とにかく車は多いし、関門トンネル前がすごい渋滞で全く動かなかった。疲れてないと言ったら嘘だけど、運転は好きなので、意外に大丈夫でした^^

道中、主人といろんなことを話せたのもよかったかな♪ 仕事のこと、家族のこと、私たちの将来のこと etc…。普段はテレビ観たり、子どもと遊んだりでゆっくり話すことも最近はなかったように思うし、笑。2歳になる娘はお人形やシールで遊んだり、爆睡したりでお利口でした。

福岡に戻る日に、義妹の家族がきてくれて、スイカ割りをすることに！「暑いし少し面倒だなあ〜」と逃げ腰モードだったけど甥っ子が「絶対やるんだー！」と必死、笑。じゃあやるかと、娘を参加させたら、なんと！大変盛り上がり、忘れられない夏の思い出に。これからは娘と一緒に楽しい経験をたくさんしていこう♪

「なぜ、コロナの状況のときに帰省せな行かんのかいな?!」と内心、思ってたけど、娘がすごく楽しそうにスイカ割りをする姿を見て、帰って良かったと心から思えました（帰りは高速道路でビューンと帰れて、行きの10時間が嘘のよう。高速最高!笑）。友永真麗

おばあちゃんとトマトをとってご満悦♪



生まれて初めての
スイカ割り☆



割った
スイカを
頬張る!



公民館横



役場前

サン・マリンデザイン
オフィスの友永です!

家の周りは田んぼ、
たんぼ、タンポ!



会長さんの 第26話 昔話

昭和19年の暮れか20年の初めごろではないかと思ひます。佐世保に住んでいた父多八の姉エツと子ども6人、多八の叔母カモと子ども4人が塩田（当時は五町田村）に疎開してきます。私と父と母と兄の4人をあわせて16人が我が家で暮らしていましたが、疎開してきた頃にはエツの夫助作は出征していたとのこと。助作は私の母レイの兄

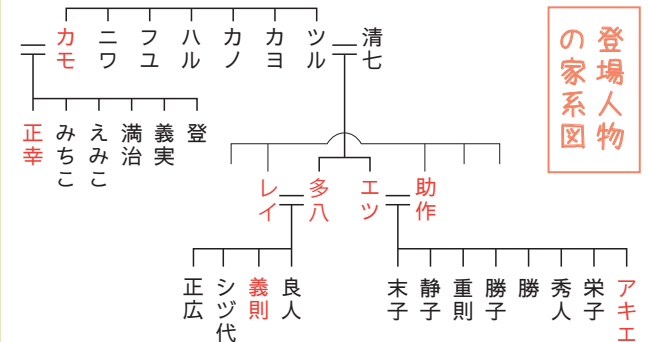
になりす。先に結婚していたエツと助作が自分の弟と妹を結びつけたようです。父が22歳、母が17歳のときに結婚しています。昭和20年8月、大東亜戦争は終わりますが、佐世保はまだ焼野原だったからでしょう、エツ家族もカモ家族もそのまま塩田に留まります。学校に行く年齢だった子どもたちは、こちらの学校に通いました。助作が復員し、昭和22年ごろにはエツ家族が佐世保に戻ります。しかし、長女のアキエは「佐世保

には帰らない!」と言い張り、塩田に残ります。18歳になっていたこともあって、娘を置いてエツ家族は帰りました。その後、昭和23年に私の妹が、昭和25年には弟が生まれ、まだカモ家族もいましたので、減りはしたもののその後大勢で暮らし始めました。塩田に残ったアキエは叔父母になる多八とレイをお父さんお母さんと呼ぶようになりす。こちらの学校を卒業し、陶土業を手伝いながら、昭和27年に洲野家から嫁いでいきます。23歳になる前でした。佐世

保に戻ったエツ夫婦には2人の娘が生まれていたので、アキエは8人の兄弟姉妹になっていました。これ以前にカモの三男満治は、中学校を卒業した時点で一人佐世保に戻っています。そして昭和28年、末っ子の正幸が小学校を卒業するとカモ家族は佐世保に戻ります。大勢で一緒に暮らし始めるころも、そのあととも微塵の鼻息なく、多八とレイは自分たちの子どもも甥姪も分け隔てなく接しました。どの子にも優しく、どの子にも優しい両親でした。

洲野義則

登場人物 の家系図



読者のみなさまからの感想が励みになります。ご感想をお待ちしています。

洲野 陶磁器



有限会社 洲野陶磁器原料

〒849-1426 佐賀県唐津市塩田町大字五町田乙287-1

TEL 0954-66-4207 / FAX 0954-66-3747 / E-mail info@fromform.jp

<https://fromform.jp/>

このニュースレターは、これまでご注文いただいた方、サンプルをお送りしました方、名刺交換をさせていただいた方など、ご縁がありましたみなさまにお送りしております。必要のない方は、たいへんお手数ですがその旨を上記までご連絡ください。